

奈良障 害者運 転だ より

奈良県障
害者運
転者協
会

NO. 21

発行日 平成二十二年八月一日
発行者 檜原泰彦
編集 奈良障
害者運
転編
集部

暑中お見舞い

申し上げます

会長 檜原泰彦

各地で大きな被害をもたらした梅雨前線もようやくおさまり夏本番の暑い日々が続きそうです。皆様には如何お過ごしですか。

7月17日、第4回目の理事会を開催しましたが、議案の中で理事二方の母親が入院され急遽、介護のため理事の職を辞したい。もう一方の理事は、三度の食事介護をせねばならないので事務代行者を選んでほしいと報告され了承されました。誠に淋しい悲しい思いがいたしました。いづれ我々

員の皆様にも一度は経験いたさねばならない事が協会の中から起きたのであります。

若し、今、このような事が自分に起きたらと考えてみて下さい。病院であれ看護施設であれ、そう簡単に受け入れてくれません。対応出来ない方はどうなりますか。それが為の介護保険であり国民健康保険であるはずなのですが。所得がどうの、子供や家族がどうの、介護の認定はどうのと緊急を必要としない場合拒むことの説

明にしか受取れません。これが全てとは思いませんがもつと温かく思いやりのある対応が出来ないものかとおつくづく思われてなりません。まして遠方に勤務されている家族であれば介護したくても出来ない事情もあるのです。親の介護は子供がみるのは当然の事ですが、それが出来ない苦しい事情のあることを認めるべきです。

又、後期高齢者で体の悪い方が介護出来ない人達もいることを、あえて介護を強要することによりその家族が崩壊してしまう恐れもあり世間をはばかりそれが自殺につながる危険さえあるのです。

現在、奈良県内で介護施設に入所申込み順番待ちの人が五千人いるといわれております。5月9日付け奈良新聞に県高齢者福祉計画実態調査の記事がありまし

た。その中、暮らしのサポートでは①穏やかな老後を実現したい。②半数以上の方が最後は自分の家で死を迎えたい。③家族の介護支援について自分も高齢になり介護することが困難になる。④3割の方は現在住んでいる居住関係が不安。⑤回答者の8割以上の方は持家である。

まとめとして、介護する家族の支援強化が必要と結んでいる。こうした日々起こりうる現状に対応するため協会として何かお手伝いは出来ないか、又、色々な相談をお聞きし対応を皆様で考え、その中で行政にお願いする事もあるかもしれないが、皆さん一番悩み困っていることをお聞きしどう対応するか考えてみようではありませんか。皆様からの一報をお待ちいたしております。これとは猛暑が続くようです。くれぐれもご自愛のほどを。

奈障運のエネルギー

副会長 齋藤恵彦

今年の梅雨の雨の降り方が激しい。それが過ぎるとかんかん照りの暑さである。それでも奈障運の会員は元気である。

小生は7年前に健常者で会員に入会させていただき2年前に軽い脳梗塞にかかり少し左足が重く感じられる程度であるがやっとなぜか皆さんのこと、奈障運のことが少し理解出来るようになってきました。9月のフェスティバル、忘年会、新年会、春の総会、高校生への車いす生活になった体験談の講演、車椅子試乗体験指導、リフトバスによる一泊旅行、日帰り旅行、それにIT社会に乗り遅れないように毎月パソコン教室を開講。これらの運営を決める毎月の理事会等大変なパワーである。しかも来年40周年記念事業をやるうとするエネルギーはどこから湧いてくるのか。

通して人間的に成長され豊かな心を醸造されておられる。各人の障害はそれぞれ異なる。もっておられる能力もそれぞれではあるが障害を乗り越えようとの思いは同じである。

昨今の健常者は元気がない人が非常に多くなった。心の悩んでいる人、自殺が増加し大きな社会問題となつていく世間は、奈障運に学ぶことは多いと思います。

奈障運も40年を迎えようとするが高齢化は避けられない。若い人の会員が増えない、高齢の親の介護で忙しく理事会どころではない。これからは長年のノウハウを生かし、いい知恵が出てくることを期待したい。どなた様も人生を厳しく生きておられるなか努力して頑張っていきましょう。

相手の思いを推測

副会長 灰藤節子

インターネットを利用した「ホームページ」「ブログ」「ツイッター」とさまざまな方法で、自分の思想や感情を世界中に発信でき

る手段が大流行です。私も時代の流れに乗って一番簡単な「ツイッター」で140文字という制限はあるもののその時の思いをつぶやいています。私のつぶやきを読んでフオローしてくれる人がいたり、顔も姿も知らない人のつぶやきを読んで「そうそう、私もそう思う・・・」と「同感」という人のフオローをして楽しんでいきます。

しかし、大切な話題についてはやはりface to face (顔と顔)です。話を聞きながら、話しながら相手の目を見て顔全体の表情から「推測する」ことが大切なのではないでしょうか。今、親子、夫婦、師弟、友達の間でこの推測する力が衰えてきているように思います。親と子が膝を突き合わせて子供の言い分を聞き、親の思いを伝える、また、医者と患者が向き合って患者が体の不調を訴え、医者はその患者の顔色や表情から言葉で表現でききれない体の不調を推測する、こんな場面が少なくなっているように感じます。

世の中が忙しすぎるのか、人と人との関係が浅くなったのか残念です。相手の思いを推測する力を養いたいものです。

目次

ごあいさつ	檜原泰彦	… 1
ごあいさつ	齋藤恵彦・灰藤節子	… 2
第39回総会報告	汐碓昭義	… 3
最近思うこと	パソコン教室講師 金井隆弘・洋子	… 3
会員の皆様方、はじめまして	藪内章司	… 3
小豆島一泊二日の旅	井口やよひ	… 4
スポットライト	車椅子体験学習	… 5
平城高校1年生の感想		… 6
平城高校の皆さんの感想文を読ませていただき		
	清水煌三	… 7
平城遷都1300年祭	沖 定	… 7
事務局からの報告	編集後記	… 8

奈障運 役員名簿

役 職	氏 名	備 考	役 職	氏 名	備 考
会 長	檜原泰彦	—	理 事	壺井三治夫	青年部副部長
副 会 長	齊藤恵彦	企画部長 他	理 事	野本美代子	編集部
副 会 長	西村佳代子	書記	理 事	橋本弘子	事務局次長 他
副 会 長	灰藤節子	ボランティア部 他	理 事	小林明彦	青年部
専務理事	汐碓昭義	事務局長 他	理 事	南埜淳子	青年部
理 事	秦美智代	会計 他	理 事	山本信義	パソコン教室 他
理 事	高森敏夫	編集部長 他	理 事	大西康博	(新任)
理 事	山田悦子	青年部長 他	理 事	藪内章司	(新任)
理 事	増田秀子	ネット通信部長	監 事	高間成卓	—
理 事	奥田 秀	ボランティア副部長他	監 事	中川公子	—
理 事	木村有美子	会計補佐 他	顧 問	新谷紘一	奈良県議会議員
理 事	島津史男	青年部	顧 問	橋本和信	—

第 3 9 回総会報告

事務局長 汐碓昭義

4月25日の第39回総会は出席者67名、同伴者17名、委任状提出29名、会員数112名で総会は成立しました。また、来賓も衆議院議員 吉川政重様、奈良県会議員 新谷紘一様、大和郡山市長 上田清様をはじめ、16名の方がご参加いただきました。午後のイベントはアマチュア落語寄席「雲水坊風之助一門」の皆様による落語を楽しみました。

最近思うこと

パソコン教室講師

金井隆弘
金井洋子

最近、人の心が乾いていると思いませんか？メディアの発達で世界中のニュースが聞こえます。その中には聞きたくないニュースが多いように思います。もっと小さい世界、自分の周りの話で良いのではないのでしょうか？遠くの人々の苦しみは確かに何とかしたいけれど、まずは自分の周りから少しでも一緒に楽しいことの話が出来る人を作りましょう。相手の人を大切に思い、自分の事を分かってもらえる、そんな人の繋がりをちよつとずつ広げて行きますか？そうすればいずれは、きつと世界の人々と繋がって行くのだと私は思います。



会員の皆様方、はじめまして

藪内章司

此の度、理事に選出して頂きました藪内章司と申します。実は、以前、奈障運の二十六年（平成9年）から三十年（平成13年）まで会員でした。懐かしい方々も沢山おられます。その頃はまだ介護とか福祉車両等まだまだ出来なくて、ボランティア部が設立された年の送迎一五〇〜一六〇回位、部で手分けして、二〜三年ほどした覚えがあります。

会の一歩の行事が安全運転フェスティバルでの福祉車両展示であり、この頃は、メーカーもまだ今のように、福祉車両の改良車が多くなって、早くからメーカーにお願ひして、全国のディーラー店へその日に間に合うように、手配して頂いた事も思い出されます。

又、その時分は、日障運（日本身障運転者協会）があり、会議も東京や開催地にまで行つたの会議とかで思いでも沢山だった五年間でした。微力な私ではございますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしく御願ひ致します。

小豆島一泊二日の旅

井口やよひ

六月六日、楽しみにしていた小豆島への旅。四十一名を乗せたりフトバスはJR奈良西口を出発、一路姫路港へ。今回もお馴染みの添乗員、ドライバー、車中いつも笑いを一杯にしていたいたガイドさんらと共に早、姫路港に到着。船の旅の一時です。おいしいお弁当をいただき、瀬戸の海を眺めながら小豆島福田港に着きました。

最初の見学地、二十四の瞳映画村へ。半世紀以上も昔に出会った壺井栄の数々の小説、中でも二十四の瞳は心に残る一冊でした。映画も観ました。『大石小石先生』『十二人の無垢な子供たち』今、私たちは岬の分教場跡にセットされた教室で小さな机、椅子、黒板にふれ、オルガンの前に座ってみたりと、その時の様子をそれぞれに懐かしみました。

土庄町には、平和の碑として、先生と十二人の子どもの達の群像が建てられています。小豆島と言えばオリーブと醤油。マルキン

醤油記念館に幾つも並んだ大きな桶にはビックリ、その大桶をくりぬいて作られた入り口からの入館でした。

今日の予定も無事終わり、今夜の宿は小豆島第一のリゾートホテル「オリビアン」です。美味しいご馳走をいただき、カラオケでのど自慢、二次会と楽しみなホテルの一時を過ごしました。入浴ではありがたく介助もいただきました。汗を流す事ができました。

二日目はあいにく小雨の中でしたが、かわいいお猿のショー、上手な芸と仕種に感心したり、大笑いの連続でした。少し登って野生の猿たちの国へのコースでしたが私には杖と傘を持つての歩行は無理で断念。写真好きの私にとつて母子猿たちのスナップが撮れなかった事少し残念でした。今回の旅で一番良かったのは、ギネス認定を受けている土庄町の「世界一狭い海峡」を歩いて渡れた事ではなかったでしょうか。土庄町長からみんなに『世界一狭い海峡横断証明書』をいただいても嬉しかったです。オリーブ園では小豆島特産のソーメン昼

食をいただき、島中あちこちに植えられていたオリーブの木からの葉を見つけ葉にしていたいただき、いい記念になりました。一生懸命探した時間も楽しいものでした。

最後の見学地「大坂城残石記念公園」では、大きな石切がたくさん展示されており、海上や陸路を運んだ様子がわかり、昔の人達の苦勞と知恵に驚きました。いよいよ帰路、少し時間が遅くなりましたが障害者にやさしいフェリーで一時間四十分の船中、少しお疲れかコックリコックリの人達も。十時すぎ無事、帰着しました。

今回の旅行を計画、お世話下さった方々、入浴介助して下さった方々、記念写真を撮って下さった方々、そして安全運転の大西様、ガイドの阿南様、添乗員の西谷様、本当に有り難う御座いました。

最後に私事で大変恐縮ですが、いつもご一緒させていただき、お世話になっておりました主人「井口高行」が昨年三月に急逝致しました。失礼ながらこの紙面をお借りして主人の生前中の奈障運の皆様のご交誼に心より御礼申し

上げます。私も少しずつ元気を取り戻し、今回の旅行にも参加させてもらう事が出来ました。皆様との「またの出会い」を楽しみにしております。



スポットライト

森田福祉記念財団贈呈式

平成22年4月8日(木)、奈良県文化会館集会室にて、森田福祉記念財団によるボランティア表彰及び福祉助成金贈呈式が行われました。社会福祉の向上に貢献する活動団体の一つとして奈障運がお認め頂き、灰藤節子副会長および汐碓昭義事務局長が出席してパソコン購入のための助成金を受けました。

保井とし子さんの受賞

第52回新協大阪展が、平成22年4月27日から5月2日まで大阪市立美術館(大阪市天王寺区)で開催されました。絵画部門では110点の展示点数の中から大阪新協賞・大阪府知事賞・大阪市教育委員会委員長賞・大阪市立美術館長奨励賞・大阪新協努力賞・大阪新協奨励賞の6名の入賞者がありました。

保井とし子さんは大阪市教育

委員会委員長賞を受賞されました。50号の大作です。おめでとうございます。また、6月22日〜27日まで第14回新協奈良展(奈良文化会館A展示室)にも出展されて、たくさんの方からお褒めの言葉を頂いておられました。更に今秋には東京会場にも出展予定ですので、ますますのご発展をお祈りいたします。

保井さんの展示を鑑賞して

野本美代子

保井様おめでとう御座います。

「新協美術展」を見せて戴いて、心が癒され時間の空間を楽しませて戴きました。切磋琢磨された修行のたまものが、形になって表れた時の感激は言葉に成らないほど嬉しかった事でしようね！今後ますますご精進されましますことをご心より望んでおります。

お知らせ

尾崎 功

第三回こどものための福祉塾「目の不自由さを体験しよう」

平成22年8月21日(土) 午後1時30分〜午後4時 於 帝塚山大学 学園前キャンパス 16号館 参加無料 問合先は、尾崎 功 電話 0742-41-5406

車椅子体験学習

県立平城高校での6月9日(水)の講演会(汐碓昭義「奈障運の活動紹介」・高森敏夫「運転免許を取った時の体験発表」・清水煌三「車椅子の目線から見えてくるもの」)に続き、6月15日〜18日の3日に渡り、クラス別の車いす体験会を無事に終了いたしました。この行事にご参加ご協力いただきました皆様、誠に御礼申し上げます。

参加された役員及び会員

榎原泰彦・灰藤節子・西村佳代子・汐碓昭義・清水煌三・高森敏夫・山本信義・中川公子・野本美代子・木村有美子・山田悦子・橋

本弘子・南埜淳子・秦美智代・奥田 秀・壺井三治男・増田秀子・島津史男・藪内章司・鈴木久子(敬称略)

体験談発表を終えて

高森敏夫

平城高校で人権学習の一環で一年生11クラス440名の前で障害者問題について話しをさせて頂きました。ご参加された方、応援有難うございました。35年前に運転免許を取る時の体験を書いた原稿を用意しましたが、思い通りには行かず、トークは難しいですね。高校生からは笑いが取れませんでした。内容がまじめな話してあっても、笑いを取りたいです。なかなか人前でユーモアを交えて話すのは至難のワザです。更に、精進に努めます。ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

副会長 西村佳代子

平城高校の講演はお疲れ様でした。今の若い方はもつと騒がし

いのかと思えますが静かに熱心に聴いてくれていて気持ちの良い講演でした。感謝申し上げます。

事務局次長 橋本弘子

お疲れ様でした。皆さんの前でのお話しは、やはり難しいですね。私などは、緊張症でドキドキものです。それに比べ、皆さんは落ち着いてお話をされていました。

野本美代子

お疲れ様でした。今回平城高校へ二回目の参加をさせて頂きました。体育館に一同の先生と生徒が集まったの聴衆の中で、話す事は容易では御座いません。立派な講演を聴かせていただき有り難うございました。

保井とし子

平城高校講演の原稿読ませて頂きました。良く聞こえませんでしたのでとても助かります。私も車の免許取る時に送迎のバスに乗せてもらえませんでした。自分

で車いすを積むのなら乗っても良いと言われました。タクシー代は授業料よりかかりました。授業料は10年前で40万円弱でした。何度落ちても構わないとの思い

でした。ちよつと手伝って下されば良いのにと何度思ったことか。タクシーも「車が汚れる」「自分で載せて」などなど・・・怖かったことも・・・免許を取るまでの我慢、我慢と・・・今はそんなことはありませんが。良くして下さる運転手さんも時にはいてはり、ホツとしたものです。今は随分変わりました。

平城高校1年生の感想

1年2組 桑原 一

もし僕が高森さんのように障害が残ってしまったら強く生きていけるのかと思います。車の免許も、障害があるからと大型車種の免許が取れなかったり、苦労なされる事は多々あると知りました。そんな方々に僕たちが少しでも

力になれるなら、電車の席なんていくらでもお譲りします。

1年6組 境 菜々子

全員が安全に楽しく出来るようにバスはリフト付き。みんな協力して楽しく仲良く活動しているんだなと思いました。(高森さんは)初めは自動車学校に入ることも出来なかった。大型車種で試験を受けたのに小型車種の免許しか貰えなかった。足が不自由だけで自動車学校に入れない事にびっくりした。

私にも足の怪我があってそこまでひどくないけど制限されるものがあって、それだけでも不快に思う事がいっぱいあるのに社に出るまで制限されるなんてちよつと許せないと思った。障害者は全体の5.5%位(日本)世界では9%位。ノーマライゼーションとは、誰もが分け隔てなく安全で安心して暮らせるようにしようと言う考え方。私は身体障害者の人とは比べものにならない位の

足の怪我でも、段差があるだけでしんどかったり階段も上れなかった。車椅子の人が段差のある場所を進むのにかなりしんどいことだし、無理な事だと思った。

最近ではバリアフリーも進み、昔と比べると障害者の方はかなり楽になったと思うけど、まだまだ不便な事だらけで、私自身、普段から気を付けるようにしているけど、障害者の人のことをこれからはもっと気にかけてはならないと思う。

奈良県の中では橿原市が進んでいることを知らなかった。田原本の子供会のボランティアを私はしているが、こういった事について全く知らないの、同じボランティアをしている人として田原本町の状況を調べてみたい。

1年8組 祖開彩希子

ボランティアの人達と交流を取ったりしているのも、すごいかなと思います。私もボランティア活動に参加してみたいと思

ました。(身体に) 障害を持つて
いると車の免許を取るときにも、
すこく障害がある事を知りまし
た。それと高森さんが言っていた
ように身近な事から思いやりが
持てるようになっていきたいです。障
害のある人でも気持ちよく生活
できるように、私たちにも気を付
けなければ行けない事が沢山あ
ると思いました。

1年3組 女子

私は障害を持つている方をジロ
ジロ見たりした事が、今までにあ
ったので、それはおかしいと思っ
たし、これからは障害を持つた方
を手助け出来るような人になり
たいと強く思いました。

1年11組 女子

障害を持つていても健常者と同
じ事をした人や出来る人が沢
山いる。障害者の意見を聞いて何
をするにも決めるべきだと思っ
た。

(沢山の感想文の中から編集部
にてまとめさせて頂きました。生

徒の皆様には、熱心に聴いて頂き
感謝しております。紙面の都合、
掲載が限られたことお許し下さ
い。)

平城高校の皆さんの感想文

を読ませていただき

清水煌三

平成22年6月9日(水)の講演
会では何かとお世話になりあり
がとうございました。奈良県立平
城高校の皆さんとの交流の機会
を持たせていただき感謝してい
ます。当日は、「肢体に障がい
のある者の暮らし」と題して、
線から見えるもの」と題して、
車いすを使用して40年間にわた
り社会参加してきた当事者とし
ての課題や急速に進む高齢化社
会の中での方向性などをプレゼ
ンテーションしましたが、熱心に
耳を傾けていただき、ここに読ま
せていただいた感想文にもその
様子が再現され、「交流の機会が
持てて良かった」と改めて感慨に
ふけています。この活動が未永
く引き継がれていくことを願っ
ています。



車椅子体験学習



沖 定

お元気でお過ごしでしょうか。私も体調の維持に苦労しながら元気になっています。奈良県下で平城遷都1300年祭が開催されていますが、メイン会場の「平城宮跡会場」には1ヶ月を経過した時点で想定していた1.9倍の84万人が見学に来場されたと報道されています。

5月11日までに撮った写真をHPの「写真130号館」に「平城遷都1300年祭：平城宮跡会場」をアップいたしました。お時間のおありの方は立ち寄りご笑覧下さい。

直リンクURL <http://17.pro.tok2.com/~soki/syasinkan130.html>

メール s-oki825@m4.kcn.ne.jp URL <http://www4.kcn.ne.jp/~s-oki825>

事務局長 汐碓昭義

平成22年度の奈障運の活動も前半を終わろうとしております。本年度前半の奈障運の活動を振り返ってみたいと思います。

6月6日(日)～6月7日(月)はリフト付き観光バスで小豆島への一泊旅行で楽しみました。天候にも恵まれ、小豆島の美しい景色を堪能していただけたことと存じます。また、8月28日(土)は日帰りバス旅行で淡路島、鳴門方面へ行く予定です。

4月から7月まで月1回のパソコン教室は柳沼寿徳様、金井隆弘様、金井洋子様への献身的なボランティアに支えられて、「外字エディター」「ワードでのチラシ作り」を勉強しております。8月は休講しますが、9月から毎月開催の予定です。

奈障運のボランティア活動として、奈良県立平城高校1年生を対象とした人権学習の一環として、「車いす講演会」「車いす体験学習会」を6月に4日間実施致しました。同様の活動を奈良県立郡山高校でも依頼があり、9月に実施の予定で準備中です。

9月18日(土)は第39回奈良

県安全運転フェスティバルの開催日です。現在役員が分担して、準備活動中です。皆様奮ってご参加下さい。来年は奈障運設立40周年になりますので、来年の総会に向けて、40周年記念実行委員会を設けて、準備に入りました。

奈良県障害者運転者協会会員の皆様、今後ともご健勝で過ごされますことをお祈りします。

理事会より

4月4日(日) 16名出席

第39回総会および親睦一泊旅行の内容を協議した。

5月15日(土) 14名出席

平城高校での人権学習講演会や車椅子体験学習の協議をした。

5月29日(土) 出席17名

第39回安全運転フェスティバル及び第40回記念総会実行委員会を立ち上げることとした。

7月17日(土) 出席15名

安全運転フェスティバルの進捗状況・郡山高校車椅子体験学習・第40回記念総会・事務局長の負担軽減についてなどを協議した。

新入会員紹介

丸田富子・宮池明・西昭子・背納良彦・中岡博美・安井恵子・山鹿久美子・木村啓子・松原寛(敬称略)

ご寄付有難うございました。

(寄付金・葉書など)

清水煌三様・山田悦子様・橋本弘子様・丸山フミ子様・村上信子様・鈴木敬三様・南埜淳子様・灰藤節子様・汐碓昭義様・中出邦子様・島津史男様・保井とし子様

編集後記

読む事だけをしていた機関誌。ともすれば見出しを見て後に回しがちな時もありました。一字一句に気をつけ根気のいる作業を日程に合わせながら、あせらず、それでいて急いでいる。編集の扉の前で何からやるの!どんな方法で呼びかけたら耳を傾け答えてくれるの!と思っています。機関誌を作る人の身になって読んで見よう、原稿募集に参加してみようと思っています。今後とも、皆様のご投稿を心からお待ちいたします。(野本)

奈障運の多彩な行事ですが、参

加したくても出来ない会員の皆様にとりましては、この機関誌を読むことよって会の運営や活動の様子をお分かり頂けるものと存じます。会員相互の情報交換などにお役に立つことが出来るように苦心いたしております。今回の21号は、如何でしたでしょうか。ご感想をお寄せ下さい。また、この度も多くの投稿を頂きました。有難うございます。(高森)

「奈障運だより」第21号 2010年(平成22年)8月1日発行

発行所＝「奈良県障害者運転者協会」

発行人＝檜原泰彦 〒633-0062 桜井市栗殿1030-1

TEL: 0744-45-2304 メール: takumiie@m4.kcn.ne.jp

URL: <http://www.nashoun.com/>

編集部＝高森敏夫 〒630-0121 生駒市北大和2-10-16

TEL: 0743-79-3887 メール: takamori@kcn.ne.jp

同＝野本美代子 〒631-0846 奈良市平松2-4-12

TEL: 0742-43-3820 メール: ma78ac26ml@kcn.jp

郵便振替口座＝00910-3-43637「奈良県障害者運転者協会」